

茨城県における過去3年間のムンプスウイルスの検出状況について

○後藤慶子, 土井育子, 永田紀子
茨城県衛生研究所

【目的】ムンプスウイルス (MuV) は流行性耳下腺炎の原因ウイルスであり, 無菌性髄膜炎や脳炎等の合併症を認める場合がある。ワクチンの定期接種化の検討が求められている現在, MuV の遺伝子型を把握することは公衆衛生上重要である。今回, 過去3年間の茨城県内における MuV の検出状況を報告する。

【材料と方法】2014年4月から2017年9月末までに感染症発生動向調査の一環として検体採取した448例 (急性脳炎:202, 無菌性髄膜炎:183, 流行性耳下腺炎:39, その他:24) の検体 (髄液, 咽頭拭い液, 血清, 尿) について Realtime PCR 法または RT-PCR 法により MuV の検出を行った。MuV が検出された症例については small hydrophobic (SH) 遺伝子配列を含む領域のシーケンス解析を行い, 遺伝子型別を実施した。

【結果】448例中43例 (急性脳炎:1, 無菌性髄膜炎:19, 流行性耳下腺炎:21, その他:2) から MuV が検出された。遺伝子型は G が38例 (Ge:10, Gw:28), B が5例 (星野株:3, 鳥居株:2) だった。性別は男25名, 女18名, 年齢の中央値は9歳 (3ヶ月~40歳) であった。遺伝子型 G が検出された38例はワクチン接種歴あり5例, なし18例, 不明15例であった。

【考察】MuV が検出された43例中38例は遺伝子型 G であり, その多くは Gw であった。近年国内の MuV 検出例の大半は Gw が占めており, 本県においても同様の傾向であった。遺伝子型 B の5例はワクチン接種後に発症しており, ワクチンの関与が示唆された。